

貴重な三線に見入る来場者 18日、那覇市の県立博物館・美術館



三線の音や形の魅力、三線を愛する沖縄文化をテーマにした企画展「三線のチカラ」形の美と音の妙」（県立博物館・美術館主催、琉球三線楽器保存育成会など共催）が18日、那覇市の同館で始まった。県指定有形文化財の三線や戦前にハワイに渡った

三線の魅力存分に

読んで広がる NIE

三線、県工芸士による新作など148点を展示している。5月11日まで。

開会式で、安里進館長は「多くの県民が沖縄の宝である三線への理解を深めることを願う」と語った。県三線製作事業協同組合の渡慶次道政理事長は「一家に1丁、三線がある環境にな

県立博物館で「チカラ展」

ればいい」と期待した。

企画展は美術工芸品としてだけでなく、楽器としての三線の魅力も紹介している。琉球王国時代の音を再現し、聴き比べできるコーナーもある。

期間中は演奏会やシンポジウムもある。問い合わせは同館 ☎098(941)8200。